



令和4年産の「福、笑い」ができました



令和4年産「福笑い」は田植え時期の違いにより生育にばらつきがみられました。

5月下旬に田植えを行ったほ場では、6月上中旬の低温により活着に時間がかかり、生育が停滞したため、幼穂形成期の茎数は少なくなりました。

幼穂形成期の葉色が濃く推移したため、追肥を行わなかったほ場が多数ありました。収穫作業は9月18日から開始されました。

タンパク含量は平均で5.8%であり、基準である6.4%を超える生産者はおらず、15研究会114名が生産した約254.5tが「福、笑い」として販売可能となりました。

研究会	研究会事務局	生産者数	作付面積 (a)	生産量 (t)	平均単収 (kg/10a)	タンパク含量% (水分15%)
ふくしま未来農業協同組合「福、笑い」研究会	JAふくしま未来営農部米穀課	23	1,032	49.1	475.9	5.3~6.3
JA福島さくら「福、笑い」研究会	JA福島さくら営農部販売流通課	15	732	34.4	470.5	5.0~6.0
県南地区「福、笑い」栽培研究会	JA夢みなみ営農部米穀課	16	704	35.5	504.5	5.7~6.3
JA会津よつば「福、笑い」研究会	JA会津よつば米穀部米穀課	21	872	48.0	550.5	5.3~6.4
あだたらの里「福、笑い」研究会	おおたま村づくり株式会社	4	219	10.2	465.8	5.6~5.7
いわせの錦秋米生産部会	有限会社岩瀬米肥	3	162	10.5	650.0	6.0~6.2
アグリマネジメントコンソーシアム会津	有限会社カネダイ	5	219	12.8	583.6	5.7~6.2
福、笑い有機栽培技術研究会	有限会社自然農法無の会	4	182	8.5	466.5	5.7~6.0
いわき福笑い研究会	株式会社相馬屋	4	178	7.5	423.0	5.7~6.1
やまろく米出荷協議会「福、笑い」研究会	有限会社 やまろく商店	4	139	5.5	392.8	5.0~5.5
ライスコネク研究会	一般社団法人LMit	3	130	5.5	422.3	5.4~5.9
会津水稲研究会	(株)大成農業サービス	3	132	8.0	602.3	5.8~6.3
会津「福、笑い」プロジェクト	(株)東北むらせ	3	100	5.8	579.0	5.7~6.4
磐梯町福、笑い研究会	磐梯町農林課	3	127	6.9	543.3	5.3~5.8
会津あぐえこ研究会	(株)会津産直センター	3	120	6.3	528.2	5.8~6.4
合計(平均単収・タンパク含量は平均値)		114	5,048	254.5	504.1	5.8

(水田畑作課)

令和4年産「福、笑い」の販売が始まりました



「福、笑い」の発売開始に向けて、10月25日に八芳園（東京都港区）で新CMの発表会を開催しました。CMのナレーションを務めた、俳優の松重豊さんをゲストに迎え、CMのお披露目とトークセッションを行いました。

松重さんは、「福、笑い」について「ご飯だけで完結するドラマになっている」と称賛。笑っちゃうほどおいしい「福、笑い」を全国に発信しました。

CMは、「福、笑い」発売開始の10月28日から1月3日まで県内と首都圏で放映します。



← 左から

- J A 福島五連会長 菅野 啓二 氏
- 福島県副知事 井出 孝利
- 俳優 松重 豊 氏
- 福島県クリエイティブディレクター 箭内 道彦 氏

令和4年産「福、笑い」の販売開始日から、福島県内や首都圏の量販店、百貨店において、トップセールスを始めふくしまライシーホワイト等による店頭PRを積極的に展開しています。

お客様からは、「昨年食べておいしかったから買いに来ました。」など、新米の販売開始を心待ちにしていた声を多数いただきました。

また、試食販売を実施した店舗では、「おいしいから買います。」と、「福、笑い」の食味の良さを十分にお客様へ伝えることができました。



←ふくしまライシーホワイトによる
「福、笑い」の店頭PRの様子

(農産物流通課)



やまろく米出荷協議会「福、笑い」研究会 (活動1年目)

研究会員、生産地域について：

会員4名で(有)やまろく商店を事務局とし、福島市松川町、平石地区で栽培しています。

「福、笑い」生産において気を付けていること：

初めての品種であり、かつ天候が安定しなかったため、タンパク質含有率が高くなるよう施肥に注意したほか、品質を良くするため、水管理を徹底した栽培を行いました。

また、ほ場周辺の草刈りや排水路の整備等、ブランド米に恥じない環境整備を行っています。

今年栽培してみて、草丈が低く、作りやすい品種ではあるけれど、初期茎数を確保しないと収量増につながらないと感じました。



↑ 研究会の「福笑い」ほ場

販売に向けて：

有機栽培や特別栽培のお米を販売しています。

「福、笑い」の食味の良さに加えて、環境に配慮した栽培をアピールしたいと考えています。

ネーミングの良さを活用し、大手通販会社や都内の駅構内で、正月向けのお米として販売を予定していましたが、これに先行して東京近郊のお店から引き合いがあり、うれしく思っています。

一方、地元では、高価格帯のため売り上げが伸び悩んでおり、地元の人が、普通に食べられるお米になって欲しいとも感じています。



↑ 東京近郊の小売店さんへ「福、笑い」の説明および試食

一言：

次年度以降は収穫量をもっと多くしたいと思っています。

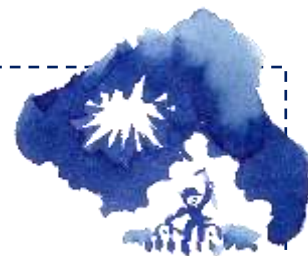
また、知らない人が多いのか、「福、笑い」の話題が出てこないため、買って食べる人が増えるような工夫が必要かと思います（地域ごとの栽培指導を強化した生産性の向上・栽培方法の検討等）。



↑ 事務局と「福笑い」集荷作業を手伝ってくれた福島大学の学生の皆さん



↑ 稲刈り前の安全祈願



福、笑い有機栽培技術研究会（活動2年目）

研究会員、生産地域について：

構成員は、会津美里町3名、西会津町1名からなっております。年齢は、20歳～70歳で構成され、とても活気のある研究会です。

「福、笑い」生産において気を付けていること：

有機栽培は、雑草、病気との戦いであり、細心の注意を払わなければ、ほとんど収穫ができない場合があります。日々、生産者がお互いに情報交換を密に行い、情報を共有し、励まし合いながら頑張っております。

販売に向けて：

ネット、流通業者、飲食店、個人と各方面に声をかけて、販売を行っておりますが、「あっさりした中に、甘みがある」と言っていただき、とても励みになっております。

一言：

有機栽培だからといって、美味しくできるとは限りません。チツソ、ミネラル、堆肥等のバランスの良い施肥設計を行い、栽培しております。

今年の出来は、穀粒判定器や食味検査で、全員食味スコア80以上の数値であったので、ますますであったと思います。最後に、県の指導は、とても参考になり、感謝しております。



← 自然農法無の会で栽培している
「福笑い」 →



福島県からのお知らせ

令和5年度「福、笑い」研究会について（生産販売戦略、今後のスケジュール）

令和5年産「福、笑い」は、令和4年産同様、生産量を限定し希少性を確保したお米として、ブランド米市場における県産米の存在感を示しながら、県産米全体のけん引役として、県産米全体のイメージアップ、販売シェア拡大及び販売価格の引き上げを図り、県内稲作農家の所得拡大を目指すため、70～75ha(360～390t)の作付け(生産量)を目標とし、10/21～11/21まで研究会の認定・登録申請の受付が行われました。

今後ヒアリング等を実施し、12月末を目処に研究会ごとに面積の配分を行う予定です。

また、2月に生産者説明会を予定しておりますので、是非参加願います。（水田畑作課）